

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

不思議や疑問の言葉／富田林市立新堂幼稚園

子どもたちは不思議や疑問を感じると、その対象に注目し、感じたことや思ったことを言葉にして伝えようとします。その姿を大事に見取り保育をすることは、「科学する心」を育む保育に結び付きます。今回は、そうした子どもたちの「言葉」に焦点を当てた事例です。実践園が意見交換をしている小中学校の先生方のコメントもご紹介しています。



● ツマグロヒョウモンの不思議／4歳児

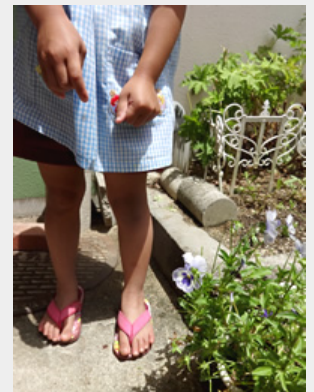
✦ 6月当初

● 場面1：幼虫を見つけて

「いつも、この花におるな!？」
「(パンジーを指さして) この花を食べとるな。きっとそうや!」

● 場面2：幼虫のいる鉢を見て

「なんか落ちてる!」
「黒いの何?? うんこ?」



Aちゃんが毎日この黒い物体の事が気になっていたようで、毎日じっくりと見ていた。そして、とうとう触って匂った。「臭くないけどこれはうんこやな。うんこの匂いや!」と断言する。

✦ 6月上旬

● 場面3：蛹を見付ける

「これちゃう?(蛹)」
「これ(蛹)になったのでは?」
「え?!」
「なんか怖いな」

想像もしない蛹の姿に驚いている。モンシロチョウの蛹の時と興味のもち方や虫を見る集中力が違う。幼虫の糞を気にしていたAちゃんはじっと見ている。

「んんん??? これなんだ?」
「なんか見付けちゃった!」

幼虫が蛹になる時に落とす顔のようなものを見付け、不思議そうに指す。「うんことも違うねん」と比較して気付いたことを言う。



✦ 6月中旬

● 場面4：空っぽの蛹を見付ける

「あれ？破れてる？」
「ちゃんといてるやん！」
「見て！中空っぽ！？」

クラスみんなが集まり話し合う。

「そりやでー空っぽ」
「チョウチョになつてると思ふねん」

子どもたちみんなは、辺りをキョロキョロと見て、「？？？」「どこ??」口々に言い探す。

「探そうー探検隊やん」
「おーい、チョウチョさん」
「チョウチョを探すの？ゲジゲジを??？」

● 場面5：蝶を見付ける

「おった！本の後ろ！」
「うわー蝶や！」
「オレンジの蝶やー」

(蝶の動きに一喜一憂し息をのむ雰囲気。しばらく言葉がなく蝶を見ている)

「すごい！」
「羽ヒラヒラしてー」

(拍手が起こる)

「飛びたいのかな？」
「外見てみたい！」
「外に行きたいんちゃう？」
「出してあげようよ！！」
「飛ぶ練習やできっと」。
「ストローある！！」
「どどこ？」

存分に様子を見た後逃がす。ヒョウモンチョウは大空に飛んでいく。



✦ 考察

この実践からは、モンシロチョウの幼虫から羽化した経験が基盤となり、ヒョウモンチョウの幼虫→蛹→蝶となる過程をじっくりと見て、想像し空想し関わることでより愛着がわく様子が伺えた。生き物の変化する神秘さ、不思議さも仲間と共に経験できた。

● 小学校・中学校の先生方との意見交流より～学びのつながり～

✦ 小・中学校の先生方の意見より

- 子どもたちのバラバラな思いや知識がじんわりと一つに繋がるようになる様が面白い。自然事象は自分の思う通りにならない不都合さがある。そこが自然から学ぶ面白さであり、その不都合さが想像力を生む。現代の子どもたちの生活は何でも思う通り、思うタイミングで手に入る時代を生きている。そんな時代を生きる子どもたちにとって、このような活動は大変重要であると感じた。
- 好きなもの、不思議なもの、心わくわくするものを自分でもてることは学びのスタートである。子どもの興味に寄り添い丁寧に経験を積み小学校に入学してきていることを小学校以降の学びで引き継ぎたい。「科学する心」だけに止まらないすべての学びの始まりがここにあると感じた。
- 1年生（本園卒園）の姿から、幼稚園では五感（諸感覚）を育て好きなものに集中して遊ぶことにより学びを積み重ねているのだと思う。



✦ 教科との関連性は

- 小学校：総合的な学習、探究的な学習
- 中学校：理科、目標：生命の連続性
- 【1・2年生】生活科：生き物との触れ合い
- 事物、現象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- 【3年】理科：生き物を調べよう、昆虫
- 多様性や規則性の発見
- 【5年】理科：生物を愛護する態度
- 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成。
- 【理科目標】自然に親しむ・自然を愛する心情を育てる
- 自然を総合的に見る

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」